

説教

聖日礼拝 北浜チャーチ  
黒田禎一郎

2020年5月3日（日）

主 題：「試練の中の喜び」

—神の不思議—

テキスト：1 ペテロの手紙 1 章 6～9 節

### はじめに

- ・第1 ペテロの手紙が始り、今日は3回目となります。ペテロは次のように言いました。  
**1:6 そういふわけで、あなたがたは大いに喜んでいます。**
- ・皆さん！ ペテロは「**あなたがたは大いに喜んでいます。**」と言いました。私たちは何を喜ぶでしょうか。仕事がうまくいった！ 出世した！ 希望の学校に合格した！ もちろん、喜んでよいことで感謝なことです。しかし、物事うまくいかない場合もありますね。うまくいかないことの方が、多いかもしれません。うまくいかない時、願ったようにならない時、がっかりしてしまいますね。
- ・それで神に祈っても、しょうがない。神を信じて意味がない、となるのでしょうか。それでは、信仰はどこへ行ってしまったのでしょうか。私たちは、いったい何を喜ぶのでしょうか。考えてみましょう。
- ・ペテロはここで、「**そういふわけで**」と言いました。それは、その前の3～5節までで書いてきたことを受けています。すなわち、私たちが新しく生まれた「新生の喜び」、その結果「生ける喜び」が与えられたこと。さらに、朽ちることのない「資産」が天に蓄えられていること。そして今も、神の力に「守られている」ことです。それでペテロは、喜ばずにはおられない、と言ったのです。
- ・皆さん。キリスト者の究極の喜びは、神が成してくださったこと、神が約束しておられること、それゆえの喜びなのです。ペテロはこのように言いました。  
**1:6 今しばらくの間、様々な試練の中で悲しまなければならないのです**
- ・この書簡の受け取り人は、当時、周囲の人々から反発を受けていました。悪人呼ばわりされたり、不当な仕打ちを受けたり、脅かされたり、身体に危害を加えられる可能性もありました。それは、どんなに悲しいことで、辛いことであつたのでしょうか。それなのに、ペテロの心には不思議な喜びがありました。
- ・ペテロは、この不思議な喜びについて書きました。今日も、みことばを掘り下げてみたいと思います。 2点

### 大切なポイント

#### 1. なぜ、試練にあうのでしょうか

- ・神がお守りくださるといふのであれば、どうして神の子たちが辛い目にあうのでしょうか。次の聖句から、その理由が分かります。

**1:7 試練で試されたあなたがたの信仰は、火で精錬されてもなお朽ちていく金よりも高**

価であり、イエス・キリストが現れるとき、称賛と栄光と誉れをもたらします。

- ・神は、神の子たちが試練にあうことをお許しになります。しかし、そこには理由があります。

### 1) 信仰が練られる

- ・1つは試練によって、信仰が練られるということです。ペテロはここで、金の精錬のことを思い起こすよう促しています。金は火で精錬されてこそ、値打ちのあるものになります。しかし、その金でも私たちの永遠を保証し、支えるものではありません。失われていくもの、朽ちていくものです。それよりも尊いものが、試練によって生まれてくるというのです。

#### 『例 話』

- ・私自身の経験から、信仰は試練によって練られるということが出来ます。生まれてから69年間、私は健康保険証を歯医者さん以外はほとんど使ったことがありませんでした。しかし加齢とともに、身体が病んできました。
- ・皆さんもご存じのように（お祈りいただいたように）、2度の手術と入院生活を経験しました。私にとって身体的な試練は、決して小さなことではありません。そして、現在も足の厳しい痛みが続いていますが、本当に辛い日々です。
- ・しかしながら、この数年間を振り返ってみると、試練（苦しみ）をとおして私の小さな「信仰は練られ」てきたと思います。神からご覧になれば、まだまだと思いますが、病気という試練は私にとって益となったと、いうことが出来ます。
- ・確かに試練は、私たちを変えていきます。皆さんは、いかがでしょうか。パウロはローマ人への手紙5章で、次のように言いました。

5:3 それだけではなく、苦難さえも喜んでいきます。それは、苦難が忍耐を生み出し、

5:4 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと、私たちは知っているからです。

5:5 この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。

- ・なぜ、私たちは試練に会うのでしょうか。

### 2) 称賛と栄光と誉れに至る

1:7 イエス・キリストが現れるとき、称賛と栄光と誉れをもたらします。

- ・この言葉には2重の意味があると考えられます。1つはキリストが来られる時、試練の理由が明らかになり「称賛と栄光と誉れを」帰すものとなるということです。もう1つは試練にあって苦しんだ人が「称賛と栄光と誉れを」受ける人となることです。
  - ・イエスは次のような例え話をされました。マタイ福音書25章
- 25:21 主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』
- ・主人に忠実に仕えるしもべが受ける言葉です。私たちも、主からそのようなおことばをいただくことが出来ますよう願います。

- ・さらにパウロは、「イエス・キリストが現れるとき」と言いました。ここでいう「現れ」は、ギリシャ語で“apokalypsis”（アポカリュプシス）です。この言葉は、遠くにいた人が現れるという意味ではありません。むしろ、ずっと共にいたけれども、隠されていた存在が明らかにされるという意味です。

### マタイ福音書 28 章

**28:20** わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

- ・私たちの肉の目には隠されていて、見えませんが、信仰の目を開いて、ともにいてくださる主を見せていただけるのです。
- ・参考までに、「アポカリュプシス」という言葉は、「ヨハネの黙示録」のタイトルでもあります。聖書の最後にある「ヨハネの黙示録」には、苦難の後にキリストが再び来られて、新しい天と地が現れ、罪と死から解放された世界が現れることが書かれています。その時、完全な意味で、私たちは「称賛と栄光と誉れを」帰して、礼拝をささげることになります。そして神から「称賛と栄光と誉れを」受けることにもなるのです。
- ・ですから、今の時の試練（苦しみ）は、先にある「称賛と栄光と誉れ」と比べるならば、小さなことにすぎません。したがって、ペテロは喜ぶことができると語っています。
- ・このように、私たちが試練に会う理由が、2点あります。そして神を信じる聖徒には、もう一つ、不思議なことがあります。

## 2. 見なくても信じ、愛する喜び

**1:8** あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、今見てはいないけれども信じており、ことばに尽くせない、栄えに満ちた喜びに躍っています。

- ・じつに美しい言葉ですね。キリスト者とは、どんなものであるかを、最も美しく描写した言葉と思います。

### 1) 前の弟子ペテロ

- ・皆さんもよく知っておられるように、この書簡の著者はペテロです。彼はイエスの12弟子の1人でした。約3年間、主と寝食を共にした側近の1人でした。彼はいつも主のそばで、主の教えを聞き、奇跡を目撃し、主が人々に注がれた愛に直接接触れることができました。
- ・けれども、大きな失敗もしました。彼は「あの人を知らない！」と、師である主イエスとの関係を否定しました。しかし、そのようなペテロを、イエスはお見捨てになりませんでした。
- ・イエスが復活された後、男の弟子たちの中で、最初に主ご自身を現されたのは、そのペテロでした。そして数日後、ガリラヤ湖畔で再会した時、主からこう質問されました。

### ヨハネ福音書

**21:16** イエスは再び彼に「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛していますか」と言われた。ペテロは答えた。「はい、主よ。私があなたを愛していることは、あなたがご存じです。」

- ・ペテロは復活の主に出会い、まったく変えられたのでした。かつては一番弟子を自負していました。彼の心中には、神の国では高い地位に就くのだという野心もありました。主のためなら、投獄されてもかまわないと勢いがり、覚悟もしていました。
- ・しかし、イエスが捕らえられ十字架にかけられた時、そのような野心も、覚悟も、プライドも、粉々に砕かれてしまいました。彼は復活の主に出会い、何よりも主にお従いしていくこと、主に対する愛であることを知らされたのです。

## 2) 後の使徒ペテロ

- ・復活したイエスは40日間弟子たちと共におられ、皆の前で天に昇られました。主は目に見える形ではありませんが、約束どおり、もう一人の助け主である聖霊を注がれました。それからのペテロは、じつにダイナミックな伝道者へと変えられていきました。
- ・彼はエルサレムから始まり、パレスチナ地方、シリア、トルコの各地にまでイエス・キリストを宣べ伝えていきました。そして各地に散っていたディアスポラのユダヤ人たち、またユダヤ教の会堂に出入りしていた異邦人たちが、イエス・キリストを救い主と信じるようになりました。
- ・イエスの公生涯の3年間。ペテロは主と共に過ごしましたが、自分がこのような伝道者（器）になるとは考えなかったでしょう。しかし、イエスがペテロに言われたとおりになりました。**ルカ福音書5章**

**5:10** イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間を捕るようになるのです。」

- ・ペテロが伝道すると、エルサレムの知識人たちでさえ回心していきました。

### 使徒の働き2章

**2:37** 人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、私たちはどうしたらよいのでしょうか」と言った。

- ・ここでも用いられている「心を刺され」という言葉は、ドリルで穴を開けるという意味です。ガリラヤの一漁師であったペテロが語った言葉が、ユダヤ社会の指導者や知識人の心深くに、ドリルで穴を開けるように入りました。それは神が成されたわざでした。
- ・ペテロの言葉には、理屈、単なる思想ではなく、復活されたイエスが共におられた（臨在）ことがわかります。主のことばは、聴衆の一人ひとりのたましいの内に働きかけました。そして、救いの喜びを与える現実を知ることができます。

### {例話}

- ・旧ソ連時代ですが、シベリア北部のコミ共和国（**Komi Republic**）であった実話です。現地は石炭や鉱石などが取れる地帯で、強制労働収容所があちらこちらに建てられました。そこには多くの囚人（強盗犯や政治犯として送られたクリスチャン）が入れられ、無報酬で労働を強いられていました。
- ・そこに、クラホフ（**Chrahoff**）伝道者が入れられていました。彼は窃盗事件を起こした犯罪人ではありませんでしたが、囚人でした。旧ソ連時代、キリストの福音を宣べ伝えるために捕らえられ、なんと26年間も収容されていたのでした。ました。26年間（人

生の約3分の1の時間)という気が遠くなる時間を、その収容所で過ごした人でした。彼の入った部屋は、強盗犯ばかりでした。鉄製の三段ベッドの中段に、上と下を強盗犯にはさまれて寝ていました。

- 何日かともに生活しているうちに、強盗犯たちはクラホフ伝道者の行動に注目するようになってきました。そしてある時、とうとう尋ねました。「クラホフ、君は俺たちと全く違う人だね。いったい誰なんだ。俺たちはなぜこんな所に来なければならなくなったのかは、自分で分かっている。しかし、君がここに入って来たことは不思議でならない。どうしてだい。」
- クラホフは答えました。「私は、クリスチャンです。」すると囚人たちは「クリスチャン？クリスチャンってなんだ？」と尋ねてきました。この日から、彼は質問攻めに合うようになりました。
- 神は、この強盗犯たちの囚人たちの心をお開きになりました。すると強盗犯が、イエス・キリストを自分の救い主として信じ受け入れました。彼らは収容所で、新しく生まれ変わりました。神の前に、死とさばきから解放されたのです。
- すると今度は、彼らの多くが神の恵みを宣べ伝える囚人となりました。このようにして、当時のソ連で霊のリバイバルが起こったのでした。収容所内で、このようにキリストの福音を語ったクラホフは、小学校4年しか学校に行っておりません(当時のクリスチャンは、それ以上の教育は受けられなかった)。しかし、神はそのような器を用いられました。
- 愛する皆さん！ ペテロも同じように、ユダヤ教の神学者ではありませんでした。ガラヤ湖の1漁師でした。人々はペテロのメッセージを通してイエスを見たのでした。それは神がおられたからでした。コミ共和国の強制労働収容所にいた囚人たちは、クラホフ伝道者を通してイエスを見たのでした。
- まさしく、このみことばのようです。  
**1:8 あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、今見てはいないけれども信じており、ことばに尽くせない、栄えに満ちた喜びに躍っています。**
- 私たちの神は生きておられるお方ですから、私たちには、すばらしい約束が与えられています。それは「新生の喜び」、その結果「生ける喜び」をいただきました。そして「朽ちることのない資産」を約束され、「神に守られている」ことです。冒頭でペテロが「そういうわけで」と言ったように、私たちも神に感謝し、賛美を捧げしようではありませんか。

## ま と め

主 題：「試練の中での喜び」

—神の不思議—

- 私たちは今日も、主からみことばをいただきました。聖書の神は、昔も今も変わらなく生きておられるお方です。その神は、ペテロをとおしてお語りくださいました。何を学ぶこ

とができたでしょうか。

1. 信仰の試練には意味がある
2. 「見なくても信じ愛する喜び」がある

\* God bless you!